



Time:14:10時点

※前回報:4月4日報 Vol:12

統括部 物流・調達課

今週のTOPIC

EUの禁輸措置検討でロシア産原油の供給減少不安再燃により110ドル水準へ続伸

■ [4月CP] プロパン: \$940 (前月比+\$45)、ブタン: \$960 (前月比+\$40) ■ [3月MB平均]: \$742 (前月比+\$64)

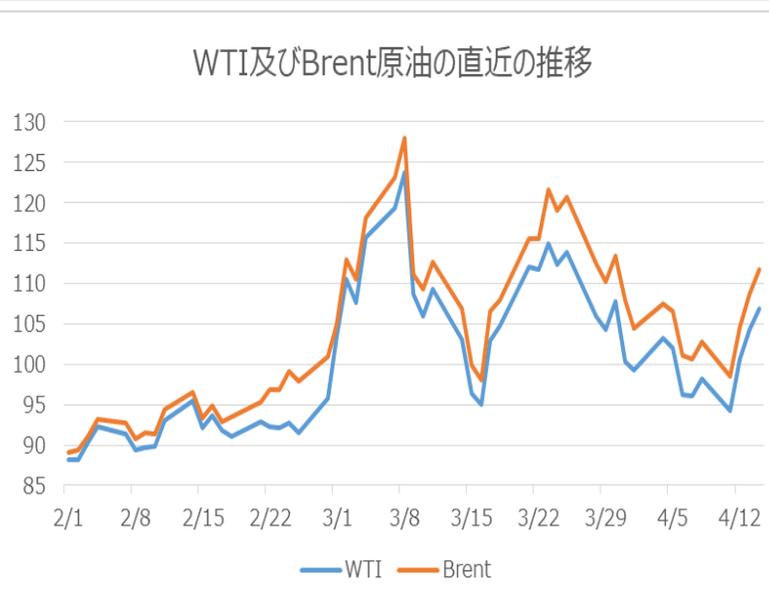
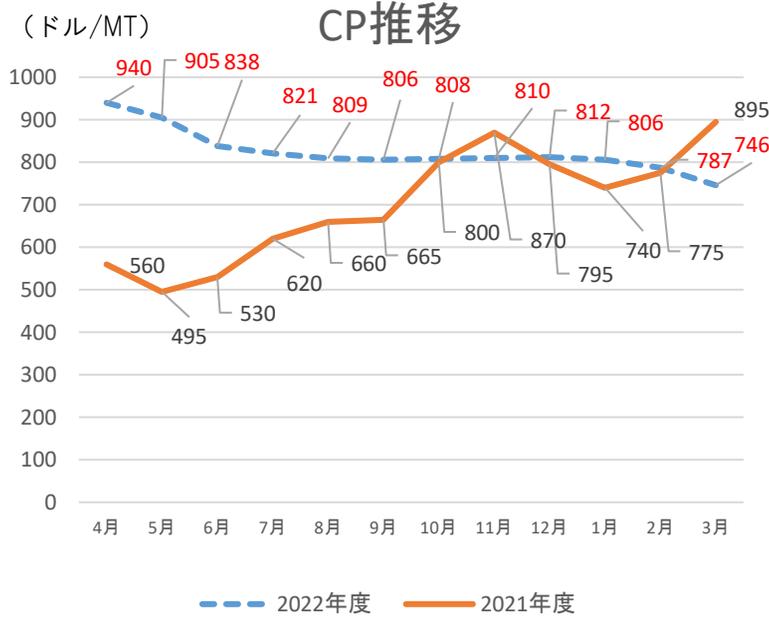
エネルギー市場

原油 先物 (USD/BBL)	今回	前回	前回比
NY/WTI	107.31	100.31	+7.00
北海Brent	112.73	105.46	+7.27

LPガス 先物 (USD/MT)	AL熱量換算比			
プロパン予想値	今回	前回比	今回	前回比
CP 5月	905	+55	92%	▲5%
MB 4月	685	▲27		

プロパン	6月	7月	8月	9月	10月
CP先物	838	821	809	806	808
プロパン	5月	6月	7月	8月	9月
MB見通し	699	694	691	687	684

外航フレートSPOT (USD/MT)	今回	※前回	前回比		
中東-日本	69.5	65.0	+4.5		
米国-日本 (パナマ運河経由)	122.0	111.0	+11.0		
為替/TTS	4月予測	3月	2月	1月	
USD/円	20日	124.43	117.21	115.96	115.85
	末日	126.32	119.53	116.22	115.85



LPG元売り5月改定幅予測値 (円/t)	プロパン	ブタン
ジャパンガスエナジー	改定レンジ: +4,920~+5,520	+7,200~+7,800
ENEOSグローブ	改定レンジ: +4,520~+5,120	+6,800~+7,400
アストモスエネルギー	改定レンジ: +4,420~+5,020	+6,800~+7,400
ジクシス	改定レンジ: +4,390~+4,990	+6,800~+7,400

マーケット概況

	今回	※前回	前回比		今回	※前回	前回比
NYダウ (US\$)	34,451.23	34,818.27	▲367.04	TOPIX (円)	1,877.88	1,953.63	▲75.75
S&P500 (US\$)	4,392.59	4,545.86	▲153.27	金 (Gold)先物 (US\$)	1,985.90	1,932.05	+53.85
米国債券10年利回り (%)	2.872	2.417	+0.455	VIX恐怖指数 (%)	22.70	20.65	▲2.05
日経平均 (円)	26,759.19	27,736.47	▲977.28				

当レポートの内容は伊藤忠エネクス株ホームライフ部門 統括部/物流・調達課の発行日における見解を記したものであり、その正確性、完全性を保証したものではありません。また本レポートの無断掲載・転送・改変を禁じます。

今週のTOPIC

EUの禁輸措置検討でロシア産原油の供給減少不安再燃により110ドル水準へ続伸

原油概況

★対ロシア経済制裁及び中国コロナ影響如何により乱高下展開は継続

影響度

強気・
上昇要因

- ① EUによるロシア産原油禁輸措置導入見通しによる需給逼迫懸念
- ② IEAがロシア産原油供給量減少可能性との見方による供給不足懸念
- ③ リビア暫定政府への抗議活動影響、一部油田生産停止に伴う供給不安

弱気・
下降要因

- ① 中国コロナ感染拡大によるロックダウンに伴うエネルギー需要減少懸念
- ② OPEC+政策維持及びIEA加盟国による協調石油備蓄放出により供給量増加
- ③ ロシア-ウクライナの停戦協議進展により供給リスク懸念の後退

LPガス概況

★5月CP905ドル(前月▲35ドル) 前後想定、石化需要後退によりLPG市況軟化可能性あり

(強気) インド政府による経済支援によりインド国内の家庭用LPG需要の増加

(弱気) 中国コロナ感染拡大によるロックダウン影響に伴いLPG需要減退懸念

(弱気) OPEC+政策による段階的原油増産幅拡大に伴う随伴LPガスの増加

「IEAとは」

IEA (International Energy Agency) とは国際エネルギー機関のこと。第1次石油危機後の1974年にOECD(経済協力開発機構)の枠内における自律的な機関として設立。参加要件はOECD加盟国であり石油の備蓄基準を満たすこと。現在、アメリカや日本を含む30カ国が参加。現在の活動はエネルギー政策全般にわたり、安全でクリーンなエネルギー供給の確保を産油国との対話や加盟国同士の協力によって進める等の役割を担っている。